

事務事業名		博物館教育普及事業		☐ 実施計画掲載事業 ☐ 総合戦略掲載事業																									
政策体系	政策名	03 豊かな心を育む人づくりの推進		事業期間																									
	施策名	14 生涯学習の推進		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 S58 年度～)																									
	基本事業名	03 学習活動の促進		☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入																									
根拠法令		博物館法		予算科目 会計 款 項 目 事業 01 10 05 05 12																									
所属	部課名	教育委員会博物館		事務事業区分																									
	課長名	遠藤 和枝		A 政策事業 B 施設整備																									
	係名	博物館	電話 29-2161	C 施設管理 D 補助金等																									
	担当者	遠藤 高雄	内線 -	E 一般(A～D以外)																									
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・市民に対して、博物館資料や気仙地域の自然と文化を普及するための事業。 ・主な業務は、①体験学習・自然観察の実施、②生涯学習相談・専門研究対応の実施、③各種実務体験(博物館実習・職場体験・社会体験等)の受入、④学校教育との連携、⑤博物館講座(市民講座)の実施、⑥小学生向け「博物館スクール」の実施、⑦博物館職員派遣の実施、⑧所蔵資料の特別利用、⑨個人所蔵資料くん蒸サービス、⑩文化財収蔵庫一日公開の実施など ・事業費は、体験学習/自然観察等の講師謝金、各種消耗品などに支出される。																													
全体計画(※期間限定複数年度のみ) <table border="1"> <tr> <td rowspan="7">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="5">事業費</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費計(A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費計(B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td> <td>0</td> </tr> </table>						総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計(A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計(B)	0	トータルコスト(A)+(B)		0
総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金																											
		都道府県支出金																											
		地方債																											
		その他																											
		一般財源																											
	事業費計(A)	0																											
	人件費	正規職員従事人数																											
延べ業務時間																													
人件費計(B)		0																											
トータルコスト(A)+(B)		0																											

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		
① 手段(主な活動)		
前年度実績(前年度に行った主な活動)		
海辺の生物観察会及び観察パンフレット刊行、市民講座、博物館スクール、教員のための博物館の日、生涯学習相談など		
今年度計画(今年度計画している主な活動)		
自然観察会、市民講座、博物館スクール、教員のための博物館の日、生涯学習相談など		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		
市民		
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		
教育普及事業を通して、気仙地域の自然と文化について学ぶことができる		
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		
主体的な学習活動が行われている		
⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		
名称		単位
ア	博物館スクールの実施回数	回
イ	生涯学習相談の対応件数	件
ウ	博物館職員の派遣回数	回
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)		
名称		単位
カ	人口	人
キ		
ク		
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)		
名称		単位
サ	普及事業への参加者数	人
シ		
ス		

(2) 総事業費・指標等の推移

			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	元年度(実績)	2年度(目標)	
投入量	事業費	財源内訳	単位							
			千円							
			千円							
			千円							
			千円							
		千円	339	286	334	192	39	100		
	事業費計(A)		千円	339	286	334	192	39	100	
	人件費	正規職員従事人数	人	4	4	3	3	3	3	
		延べ業務時間	時間	900	950	800	700	800	800	
		人件費計(B)	千円	3,600	3,800	3,200	2,800	3,200	3,200	
トータルコスト(A)+(B)		千円	3,939	4,086	3,534	2,992	3,239	3,300		
⑤活動指標			ア	回	1	1	4	4	5	5
			イ	件	12	26	31	29	24	30
			ウ	回	6	2	4	5	0	4
⑥対象指標			カ	人	38,167	37,633	36,933	36,234	35,471	35,000
			キ							
			ク							
⑦成果指標			サ	人	1,113	827	915	776	741	800
			シ							
			ス							

事務事業ID	0901	事務事業名	博物館教育普及事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
昭和58年、新館開館の翌年から、各種普及事業を開始した。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
東日本大震災後、一部の普及事業(自然観察・体験学習等)の実施を見送っていたが、平成27年度以降は地質観察会、海辺の生物観察会、植物観察会、縄文土器製作会、まが玉製作会、博物館スクール等を順次復活させるなど、震災以前の普及活動の水準に戻す努力を行っている。
また、平成29年度からは、独立行政法人国立科学博物館、公益財団法人日本博物館協会と連携し、「教員のための博物館の日」を開催している。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
博物館スクールでは、実物を観察しながらの学習は理解が深まるとの意見が寄せられている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 結びついている ⇒【理由】 普及事業への参加は、主体的な学習活動に直結する。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 市の生涯学習施設である博物館が、普及事業を通して市民の主体的な学習活動を支援することは、市の施策としてふさわしい。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象・意図ともに適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 現在の学芸員の体制では平成30年度実施分で手一杯である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 専門的な生涯学習の機会が少なくなり、市民の学習活動への支援に支障をきたす。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 自然観察・体験学習は隔年開催にするなど、事業費の削減を図っている。体験学習等で費用がかかる場合には、参加費を設定し徴収している。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 費用を最小限にして市民の学習興味を喚起するためには、事業内容の工夫などに専門職員(学芸員)等の相当な人手と時間がかかることはやむを得ず、削減の余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 体験学習等で参加費用がかかる場合には実費負担を求めている。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果																					
① 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) 3 終了・廃止・休止	左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																					
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 ・「おおふなと しぜん かわらばん」は事業の方向性を検討し、独自のアレンジを行って新たな学習機会の提供を行っていく。	<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●	×																		
	低下		×	×																		

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 2 改革改善(縮小・統合含む) 3 終了・廃止・休止	各種支援を受けながら、必要な事業を安定的に実施している。 今後ともニーズを把握しながら、当市博物館の特性を活かして学習活動の促進に努めていく必要がある。